



今年の教区の目標

われら皆 和解の器
平和の担い手

〒902-0067 那覇市安里3-7-2

カトリック那覇教区本部

TEL.098-863-2020 FAX.098-863-8474

発行人 W.F.バートン司教 1部40円

<http://www.naha.catholic.jp/>

(1) 2023年12月1日(毎月1日発行) カトリック那覇教区報 MINAMI NO KŌMYŌ

第781号(12月号)

2023年クリスマス・メッセージ 「クリスマスの心」



カトリック那覇教区
ウェイン・F・バートン司教

那覇教区の兄弟姉妹の皆さん、十二月三日から待降節に入りました。すでに街のショーウインドウには、クリスマスツリーが飾られクリスマスモードが漂っています。周囲のそのような賑わいにつられて、私たちもクリスマスを迎える準備などで自然に気分が浮き浮きしてくるのだと思います。聖堂にもアドベントのローソクが灯されました。

やがて私たちもクリスマスまでには教会や家庭に馬小屋を造ったり、クリスマスツリーを立派に飾り付けたりしますが、それは目に見える形によって見えない信仰の心を表すためです。ですから、その表現の裏にあるもの、その深いところにあるクリスマスの心、クリスマスの意味を忘れてはならないと思います。

さて、幼きイエス様のご降誕を待っている私たちの心の準備は、どうなっているでしょうか。私は子供のころ、「イエス様が馬小屋でお生まれになったのは二〇〇〇年も前の事なのに、どうして教会では毎年この時期になる

と『イエス様をお迎えしよう』と言うのだらうか?」とその意味が解りませんでした。もしクリスマスを歴史的な事実や単に誕生記念日だと考えるならば、「お迎えする」と言う意味が解らないのは無理のないことでしょう。

しかし、クリスマスは単なる記念日ではなく、私たち一人ひとりの心の中に、そしてこの世の中に、イエス様が今年も新たに生まれ下さるということとです。言い換えれば、誰もが愛する家族や友を何度も訪問するように、私たちと常に共に居たいという御心から、毎年繰り返しされる新たな訪問なのです。その深い意味を考えなければ、単なる記念行事を毎年することになってしまいます。私たちは今この待降節の期間中、やがてイエス様があらためて私たちを訪れるという意義深いことから心に向きましょう。

また、この訪問は一部の人のため、私たちキリストを信じる者のためだけのものではありません。すでに亡くなった最初の人からこれから生まれ来る最後の人に至るまでの全ての人、ひとり一人のための訪問です。

誰もが出会う最も小さな乳飲み子の姿は、誰をも拒まない最も小さなものとしての来訪をも示しています。そして、すべての人がひとしく乳飲み子だったことを思い出させ、その愛おしさや愛くるしさにおいて、誰もが神の似姿に生まれついていることを思い起

こさせます。洗礼者ヨハネは荒野で「主の道を整え、その道を真っ直ぐにせよ」と叫びましたが、その声は「あなただけでなく、すべての人を愛し訪れる神の心を受け容れますか? 神の前に最も小さな乳飲み子のように自由・正義・平等・平和でいますか?」と私たちに問いかけているのです。

そこで今年のクリスマスを単なる記念行事としないために、家の中も外も掃き清めてお客さんを迎えるように、私たちは、私たち一人ひとりの心の中を省み、自分自身を幼子のように清めて、幼子イエス様を迎える準備としましょう。そして来るべきクリスマスには、すべての人が幼子だったことを思いおこし、互いに幼子のように心の底から喜び合えるようにしたいものです。

皆さん、クリスマス、おめでとうございませう。天使たちが歌ったように、「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ」。皆さん一人ひとりに、幼きイエス様のおとずれの祝福と平和と心の喜びがありますように。





2023 Christmas Message :

“ The Heart of Christmas ”

Brothers and Sisters of Naha Diocese,

Every Catholic family has some Christmas traditions of their own. My family went to my grandparents home every year on Christmas Eve and after getting a few presents, we would all go to midnight Mass at the nearby church. Then it was time for us to go home to bed and wait for Santa to come to our home while we were asleep. Next morning (very early) we would find our gifts under the Christmas tree. Christmas Day was for the family and we usually had a big meal together. I have wonderful memories of Christmas.

My family had a Christmas tradition of its own. There always would be Christmas Stockings for the children near the tree. Other families had Stockings filled with candy but my family usually put a banana in each of the Stockings. And every year, one of us children would ask, “Why are there bananas in the Christmas Stockings?” My father would usually answer this question every year by saying that this is to remind us that not every family is as blessed as we are. My father and mother were from poor families and having a banana was a once-a-year treat for them!!! My father would then talk about our extended family and all that it had experienced over the years. The upshot of the talk, was that we must be grateful to God for all that we had. And that we cannot forget that others may be without their families this Christmas and may be in the same situation as Joseph, Mary, and Jesus in Bethlehem and are without a place to stay.

There was a little of something for everyone in our Christmas celebration: Mass and Church, Christmas

songs, prayers, family time, good food and gifts, remembering the poor and so much more. Even now, I can clearly recall my father’s joy at telling us about the history of my family. How much of his story was based on fact and how much was memories is very difficult to say but one thing is certain, my father was absolutely convinced that without God and without our Catholic faith, our family would not have been so blessed over the years. I did not know it at the time, but my father was giving witness to his faith in Jesus to his children.

Make this Christmas special for your children by instituting traditions in your family celebrations that will last a life-time. Tell your children that Christmas is not mainly about the gifts; rather it is about the birthday of our Savior Jesus Christ, it is about family and it is about our Catholic faith.

Merry Christmas!!!

May God bless you and your loved ones during the holidays.

Bishop Wayne

クリスマス
おめでとうございます
Merry Christmas

那覇教区
子どもクリスマスパーティー
Naha Diocese – Children’s Christmas Party

日：2023年12月30 (土) December 30th 2023 (Sat.)
 時：13:30 ~ 17:30 1:30 PM - 5:30 PM
 ところ：カトリック安里教会 Asato Catholic Church

❖ みんな招待されてるよ ❖
 ❖ YOU'RE ALL INVITED ❖



クリスマス： 神と人間の出会いの場

デニス・フェルナンデス神父

カトリック真栄原教会 主任司祭



ています。マタイはヘロデの治世を背景にイエス様の誕生を置き、ルカはそれをローマ帝国の背景に置きます。ローマ帝国では、課税の評価と強制兵役の責任を負う人々を発見するという二重の目的を持って国勢調査が行われていたそうです。イスラエルを治める者がユダの民族の中で小さき者、ベツレヘムから出ると預言者ミカは前もって述べた言葉

その独り子をお与えになったほかに世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで永遠の命を得るためである」(ヨハネ三・16参照)とおっしゃいました。人を愛することとは相手と共に感ずることです。神様がわたしたちを完全に愛したことを示すために自分の愛する子を送ってくださった。神様にとつて罪深い人を救う方法はこれ以外ほかになかったのです。イエス様は罪以外にあらゆる点において、わたしたちと同じ人間になったから、わたしたちの弱さに同情できる方です。

この真実はイエス様が生まれたとき最初に知らせを受けて、馬小屋を訪れた羊飼いたちから明らかにあります。ダビデは羊飼いでした。ダビデ家に生まれた救い主の誕生の知らせを最初に受けたのは野宿していた羊飼いたちでした。羊飼いは孤独で、その仕事は手のかかる仕事であり、宗教的慣習や義務に従うことが難しい状況でした。羊飼いは当時の人々から律法を守らないユダヤ人として軽蔑されていました。幼子イエス様は最初にそういう疎外された人々を選び、自分自身を現してくださいます。神殿で生贄に使われていた子羊の世話をしていた、これらの羊飼いが、世の罪を取り除く神の子羊を、最初に見たのも不思議ではありません。「わたしに来たのは正しい人を招

くためではなく、罪人を招くためである」(マタイ九・13参照)と言われた言葉が羊飼いたちの訪問を通して一番最初に実現したと言っても良いでしょう。

り、ヨセフとマリア、羊飼いに

なる人も決めました。クリスマ

スイブになり、ミサの時、福音

箇所を響く声で読んで説教をし

ました。その時、「皆さん、見

てください。この赤ちゃんの姿

の中に神様があられます」と言

って飼ひ葉桶の方に身をかがめ

て、イエス様役の赤ちゃんに何

度も親しく呼びかけて跪きまし

た。そして、赤ちゃんを抱きあ

げて「皆さんここに救い主キリ

ストがおられます」と言いまし

た。これを見ていた人々は、ど

れほどフランシスコが人となら

れた神様を愛しているかが分か

り、心を打たれました。今年はそ

の出来事から八百年になります。

イエス様はインマヌエルー神

は、われわれと共に住むために

来られた救い主です。ヨセフと

マリアがイエス様のために場所

を探していましたが、馬小屋し

か用意できませんでした。「イ

エス様がこのクリスマスの時、

世界中の何千もの馬小屋に生ま

れたとしても、わたしたちの心

の中に生まれなかったら何の得

があるでしょうか」とアレクサ

ンダー・ポーは述べています。

今年も主の降誕を迎えるにあ

たって、多くの人々がイエス様

との出会いを通して神様の愛を

体験することができるよう、

また、幼子イエス様が人々の道

を照らす光となりますように、

と切に願っています。

十二月第一主日から待降節に入り、クリスマスを迎えるために内部的と外部的な準備に取り掛かります。内部的な準備としては小教区で黙想会、ゆるしの秘跡等を予定して霊的に準備をします。外部的な準備として馬小屋を作り、飾り付け、イルミネーション等しながら、イエス様の誕生を迎える雰囲気を作り上げて行きます。クリスマスは誰にとっても楽しい、お祝いの季節であり、人との交わりが深くなり、きずなを強くする特別な恵みの時です。

歴史の流れの中で救い主の誕生

イエス様の誕生の神秘を様々な側面から見るのが出来ます。マタイとルカはイエス様の誕生を歴史の背景のもとに描い

が(ミカ五・1参照)ベツレヘムでイエス様の誕生によって実現されたことを示すために、ルカが人口調査に言及しています。ヨセフは登録するためにナザレからダビデの町ベツレヘムへマリアを連れて行きます。その時、時が満ちてマリアはイエスを産んで飼ひ葉桶に寝かせます。

神の子が人となった神秘的な出来事：

イエス様はニコデモに「神は

その独り子をお与えになったほかに世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで永遠の命を得るためである」(ヨハネ三・16参照)とおっしゃいました。人を愛することとは相手と共に感ずることです。神様がわたしたちを完全に愛したことを示すために自分の愛する子を送ってくださった。神様にとつて罪深い人を救う方法はこれ以外ほかになかったのです。イエス様は罪以外にあらゆる点において、わたしたちと同じ人間になったから、わたしたちの弱さに同情できる方です。

この真実はイエス様が生まれたとき最初に知らせを受けて、馬小屋を訪れた羊飼いたちから明らかにあります。ダビデは羊飼いでした。ダビデ家に生まれた救い主の誕生の知らせを最初に受けたのは野宿していた羊飼いたちでした。羊飼いは孤独で、その仕事は手のかかる仕事であり、宗教的慣習や義務に従うことが難しい状況でした。羊飼いは当時の人々から律法を守らないユダヤ人として軽蔑されていました。幼子イエス様は最初にそういう疎外された人々を選び、自分自身を現してくださいます。神殿で生贄に使われていた子羊の世話をしていた、これらの羊飼いが、世の罪を取り除く神の子羊を、最初に見たのも不思議ではありません。「わたしに来たのは正しい人を招

くためではなく、罪人を招くためである」(マタイ九・13参照)と言われた言葉が羊飼いたちの訪問を通して一番最初に実現したと言っても良いでしょう。

り、ヨセフとマリア、羊飼いになる人も決めました。クリスマスイブになり、ミサの時、福音箇所を響く声で読んで説教をしました。その時、「皆さん、見てください。この赤ちゃんの姿の中に神様があられます」と言って飼ひ葉桶の方に身をかがめて、イエス様役の赤ちゃんに何度も親しく呼びかけて跪きました。そして、赤ちゃんを抱きあげて「皆さんここに救い主キリストがおられます」と言いました。これを見ていた人々は、どれほどフランシスコが人となられた神様を愛しているかが分かり、心を打たれました。今年はその出来事から八百年になります。イエス様はインマヌエルー神は、われわれと共に住むために来られた救い主です。ヨセフとマリアがイエス様のために場所を探していましたが、馬小屋しか用意できませんでした。「イエス様がこのクリスマスの時、世界中の何千もの馬小屋に生まれたとしても、わたしたちの心の中に生まれなかったら何の得があるでしょうか」とアレクサンダー・ポーは述べています。今年も主の降誕を迎えるにあたって、多くの人々がイエス様との出会いを通して神様の愛を体験することができるよう、また、幼子イエス様が人々の道を照らす光となりますように、と切に願っています。

主日のミサに向かう車の中は幸せいつばいのひと時。運転手は私で、助手席には上の娘のみいちゃん、後ろには息子と末娘。子どもたちにはいつも神様と一緒にいてほしいから、みんなで神様に会いに行く朝は幸せ。でも心配もある。いつか子どもが教会に行かないって言う日が来るのかな……。子どものことはどれだけ心配してもきりがない。神様も私が子どもを心配するようにみんなを心配している。だから、神様は私たちが神様から離れないように、ときどき贈り物をくださる。

「主を求めよ、見いだしうるときに。」
主を呼び求めよ、近くにいますうちに。」

(イザヤ五十五章6節)

娘と私が乗った自転車は、トンネルに入った。トンネルの中は薄暗く静かで空気がひんやりしている。娘を乗せた自転車はスピードが落ちるとぐらつくので、私はペダルを強く踏んで加速した瞬間「みいちゃんもいたね」と娘がふっともらし

た。出口に向かって進みながら、「どこにいたの？」と聞き返した。「あっち」と娘は後ろを指差した。私はそちらを見てハツとした。雲の上からかわいい二人の子どもがこちらを覗き込んで笑っている。自転車を停めてゆつくりと眺めた。白いふわふわの雲の上で二人の子どもが楽しそうに寝そべっている。みいちゃんのほっぺに私のほっぺをくつつけて、ここにいたの？と

この人ママだよって」と話した。どうやら、みいちゃんは時々パパを見ていて、パパに「ママ」を教えるためにすべり台で雲から降りてきたようだ。私たち夫婦は妊娠がわかってから結婚を決めたいわゆる授かり婚で、確かに、みいちゃんが来てくれたから結婚したのだ。一歳半の子どもに結婚のいきさつを話しているわけもなく、私とパパは心底驚いた。そして、私は雲の上の話もすべり台の話も信じた。

う。私の母はクリスチャンではないから、愛は世代を超えても必ず伝わっている。愛はいつも子どもが神様から離れないように導いてくれる。だから、私は祖父が私にしてくれたように、子どもたちのそばにいて語ってあげたい。そうすればいつか、子どもたちが「私に連れられて」ではなく、自分から神様を求める時が来るから。

たて軸よこ軸

神様からのプレゼント

与那原教会 馬屋原

和子

さて、みいちゃんの不思議な話をもうひとつ。二人目を妊娠した時のこと、男の子がいいなと思っていた私は、妊婦健

診で「女の子みたいだね」とドクターに言われて、少しがっかりしていた。幼稚園から帰ってきたみいちゃんにお腹の赤ちゃんの子だったよと話したら、すかさず、「男の子だよ」と。「なんで？」と聞くと、「だって一緒にいた子は男の子だったから。」「・・・？」面食らう私をよそにみいちゃんは「だって雲から一緒に見てた子は男の子だからだよ」と。みいちゃんによると、雲の上で男の子と二人でパパを見ていたから、その男の子

雲の上にいる二人の子どもが描かれた壁を指さして聞いた。すると、一歳半のみいちゃんは領いて話し始めた。みいちゃんはママのお腹に来る前に雲にいたこと、雲の上はお風呂のようにあたたかくて、そこからパパをずーっと見ていたこと。この日からしばらく、みいちゃんはお風呂に入ると雲の上の話をした。それから少したったある日、パパと遊んでいたみいちゃんは、すべり台を降りながら「パパにもこうやって教えたね、

が生まれてくると言う。そして生まれた子はみいちゃんの言うとおりの男の子だった。私はみいちゃんにいた雲の上の国を信じた。



NPO 法人ぶどう園の会

訪問看護ステーション クララ

TEL&FAX:098-937-5001

住所 沖縄市泡瀬2丁目37-15

- ・基本受付 月曜日～金曜日(申込、相談など)
- ・営業時間 8:30～17:30
- ・営業日 24時間365日(緊急対応含む)



「主を求めよ、見いだしうるときに。」
主を呼び求めよ、近くにいますうちに。」

(イザヤ五十五章6節)

2023年11月拡大司祭・助祭会議議事録

開催日時: 2023年11月7日(火) 14:00~16:20 開催場所: 海星小学校会議室(石垣)

会議の前に、参加者全員で昼の祈りを唱和した。

1. 報告及び連絡事項: 司会はデニス神父が担当。

- ①前回(10月会議)の報告を津波古が行い、承認された。その際、押川司教からの質問に答える形でカリス火災保険について再度確認が行われた。各教会施設には保険が掛けられているので、自己判断によらず、損害等が生じた場合は必ず報告し、必要な措置をとるよう要請がなされた。
- ②司教、司祭の休暇や研修による不在が報告された。
ウェイン司教、11/5~6、厳律シトー会那須の聖母修道院 栃木。11/14~16、第25回日韓司教交流会 東京。
11/21 長崎管区 司教・養成担当者合同会議 福岡。
押川司教、11/14~30 コンベンツアル会の司教の集い ローマ。
ピーター神父、11/14~12/14、休暇 ベトナム。
藤澤神父、11/3~6 名古屋。11/21~24 コンベンツアル会兄弟の集い 長崎。
古川神父、11/20~23 コンベンツアル会兄弟の集い 長崎。
マキシム神父、ナビーン神父、11/27~30 カプチン会顧問会 さいたま教区。
- ③その他: 難民・移住移動者委員会の全国会議についてサニー神父から報告がなされた。

2. 審議事項

- ①長崎教会管区 代表者会議の報告が行われた。各教区から司教・総代理・事務局長の3人の代表者が集った今回の会議では、以下の主な内容について討議がなされた。
 - ・管区立の福岡大神学院と福岡コレジオの閉校に伴う諸事項について討議され、来年2月23日に両校の閉校式を行うこと等が決まった。
 - ・修道会の撤退などに伴い、学校や病院などの大規模事業を引き受けるよう教区に要請があった場合、これにどのように対処すべきに困惑するケースが出てきている。こうした重大なことへの対応については、修道会団体との協議を含め司教団で方針や対処法などを研究して、統一的な指針や対応マニュアルなどを出して頂けないか等の意見やその他の要望が出された。
 - ・長崎教会管内の全司祭を対象にした司祭集会は、その動機づけが定まっていなかったため、十分な開催意義を見出だせていない。当面は、各教区が抱える共通する課題を継続的に話し合い、管内の協力体制をより強くするために今回の代表者会議を年に一回持ち回りで開催することとし、次年度は福岡教区の担当で、10月23~24日の日程で開催することが決議された。
- ②『南の光明』誌への教区内の全司祭の写真を掲載する案について検討した。信徒の要望もあり、1月号に教区からの新年の挨拶として写真と名前や所属を掲載し、祈りによる支援と関係性の増進に資することが決議された。
- ③待降節第4主日と主の降誕、聖家族と神の母の祭日の典礼について確認が行われ、典礼担当のボスコ神父から資料に沿って説明がなされた。典礼上の一日が日没から次の日没までとの考えに基づき、待降節第4主日と主の降誕が接する12月24日は17時をもって分け、通常通り17時までに主日のミサを、同日17時以降に主の降誕のミサを捧げ、教会の祈り等もこれに準じる。聖家族と神の母マリアの祭日も同様に12月31日の17時をもって区分し、日時に適した典礼祭儀を行うようウェイン司教から指示がなされた。
- ④各小教区のクリスマス〜正月のスケジュールについて、各主任司祭からの報告が求められた。すでに決まっている小教区はその場で発表した。例年『南の光明』12月号に掲載するため、11月下旬までに全小教区から文書で編集委員会宛に年末年始のスケジュールを提出するよう要請された。
- ⑤司牧〜福音宣教について、ウェイン司教から指導がなされた。司祭として司牧に従事することは当然のことながら、対象信徒が少ないことから余力があり信徒の役割まで一人で担ってしまっている面がある。新たな信者を生むためには、教会外に出かけて行き福音を宣べ伝えるための関わりを持つことが重要である。いま私たちにできることは何かを真剣に考え、例えば他のキリスト教会や諸宗教者との交わり、あるいは市民団体との関わりなどを持たなければ、宣教活動は出来ない。一つのことでもいいから、教会外部との関わりを持つことが宣教師としての成長にもつながる。勇気のいることではあるが、自分自身にチャレンジして教会外部の人との関わりを実行して欲しい。動かなければ成長はない。と同時に教会を訪ねてくる人を見逃さないようにしてはならない。時間を決めて所在を明示し、来訪者に丁寧に対応しなければ福音宣教の糸口をつかむことは出来ない。一見矛盾すると思われるだろうが、どちらも宣教には欠かせないこと。この両立を強く望む。
- ⑥カリタス沖縄の活動について、マーシーさんから報告と周知がなされた。これまでカリタスジャパンの協力組織として那覇教区に設置運営されてきたことから「カリタス那覇」と称してきたが、那覇市以外に所在する小教区からするとどうしても馴染めないとの意見があり、司教の許可を得て、今後は「カリタス沖縄」と称することが周知された。また、去る10月7日に「Together We」の取組の一つとして実施された海岸の清掃活動についての報告がなされた。
- ⑦司教予定について、マーシーさんから確認がなされた。
11月19日 コザ教会主日ミサ、11月26日 真栄原教会公式訪問、12月1日 愛楽園教会公式訪問。
- ⑧司教へのご意見箱について、ウェイン司教から説明がなされた。物理的な箱ではないが、心のうちにそのようなスペースを置いている。直接的に意見を述べることは、誰にも認められている権利であり、それを阻害してはいけない。無論、小教区の運営を委ねている主任司祭の権利を尊重するが、その権利が信徒の自由な発言の機会を奪うことになってはいけない。誤解や我儘な要求は、決して容認すべきではないが、正しい意見には誠実に応えるべきと考える。この司教の方針を遵守して頂きたい。このご意見箱から今回は下記のことがコメントされた。
 - ・聖体拝領の仕方は、典礼上の所作として統一されている。日本では、立ったまま手でご聖体を受け拝領するように、司祭が指導しなくてはならない。
 - ・様々な理由により、一時的に所属していない他の小教区のミサに参加する信徒もいる。司祭はそれを司牧者として容認すべき。
- ⑨その他
 - ・小教区での募金などは、司教の許可なく行わないように注意が促された。時として悪用されることもあり得るし、個人的な判断で行うと際限が失われるので注意が必要。また、各小教区の聖堂の入り口や掲示板などへのチラシや広告等の提示なども内容をよく見て、主任司祭の責任で判断する必要がある。信徒と相談し、教区事務所とも連絡を取りつつ対応するように。

次回12月の拡大司祭・助祭会議は12月4日(火)午前10時から安里教区センターで行われる。

2023年11月22日 承認: ウェイン・フランシス・パーント司教 記録: 津波古 聡

教区 NEWS 教会

聖母像建立感謝ミサと 祝福式

コザ教会 金城 愛子

コザ教会お聖堂西側のルルドの庭に聖マリア像が建立され、十月二十五日（水）、主司式者ウェイン司教様、泡瀬教会の主任司祭ブイ神父様、コザ教会主任司祭ピーター神父様の共同司式により感謝ミサと祝福式が行われた。

この御像建立は、「けがれなき聖母の騎士会沖縄地区（以下騎士会）」発足後、二十二年で実現したものである。平日の午前中にもかかわらず各教会から五十人ほどが参列し喜び祝った。遠くは米国からの参列者もいた。

ミサの共同祈願では召命や平



和、感謝などの意向を、特に闘病中の騎士会員には孤独に負けず病気に打勝つ勇氣と希望の恵みを、帰天された会員のためには全ての罪から解放されて永遠の喜びに生きることができるよう祈った。

司教様は説教で会員の長年の祈りとこれまでの労をねぎらい称えられた。結びに、司教様はコザ教会初代主任司祭エレミヤ神父様から聞いた話として『教会堂建設時は信者、プロテスタント、未信者も共に、どなたでも祈ることができるようになって御像を置けなかった』と話されていたが、今日はエレミヤ神父様も天国で喜んで一緒に祝っているでしょう。今日はおめでとうございます」と締めくくられた。発足以来、世話役として騎士会と関わってきた新垣宗堅助祭がミサの終る前に騎士会のあゆみに

ついて次のように話した。

二〇〇一年八月十五日聖母被昇天の祝日に沖縄で初めて聖母の騎士会が発足

した。当初の会員は十四人だった。会員は増え、二〇一〇年十二月八日までに七五人の会員が登録された。特に、騎士会ではコザ教会において一〇年前から毎週木曜日にマリア様の取り次ぎを願うルルドの庭の完成を求めて祈って来た。資金面ではリサイクル資源などの活用や会員や篤志家からの寄付と協力によって『聖マリア像』を建立した。

そして、本日祝福式典を迎えることができた。聖母像の中には取り次ぎを願うために騎士会員やゆかりの指導司祭達、コザ教会主任司祭達や帰天された騎士会員などの名前を書き記してタイムカプセルに保存し納めている。

今後は石川教会主任司祭藤澤神父様に騎士会を引継ぎ、コザ教会の会員はこれまで同様に騎士会の益々の発展を願いながら活動を続けていく。

ミサの後には庭に移動して祝福式を行った。参加者はローソクを灯して「あめのきさき」を歌いながら聖マリア像に奉献し、コザ聖母幼稚園園児が「グロリア賛歌」で聖マリア様を讃えた。司教様が献香と聖水とで聖マリア像を祝福され、ピーター神父からお礼の言葉と「コザ教会では毎週木曜日の午前十時から口

ザリオの祈りとミサがある」との呼びかけがあった。

司教様から派遣の祝福を頂き、「サルヴェレジナ」を歌いながら感謝とよろこびのうちに祝福式が終わった。

司教様始めブイ神父様や参列者、これまでお祈りや寄付などで聖マリア像建立に協力し支えてくださった方々、特に、急傾斜地での難工事を引き受けてくださった施工業者に感謝し御礼を申し上げます。ありがとうございました。

無原罪の聖マリアの祭日 聖母の騎士会黙想会

日 時：2023 年 12 月 8 日（金）10:00~13:00

場 所：カトリックコザ教会

指導司祭：テモテ・マリア 中野里真祐神父 O.F.M. Conv.

（コンベンツァル聖フランシスコ修道会）

参 加 者：聖母の騎士会会員、すべての参加希望者（大歓迎）

連絡先：大嶺：090-1947-7533 新垣：090-9784-0486

プログラム：ミサ、第一講話 10:00~10:40 10 分黙想

：第二講話 10:50~11:20 講話の後、黙想とゆるしの秘跡

：霊的対話 12:00~13:00

計報

◆首里教会

ヨゼフ 宮城利夫様

二〇二三年十月二十日帰天
享年九十歳

◆開南教会

モニカ 有銘文字様

二〇二三年四月三十日帰天
（年齢不明）

パウロ 照屋俊雄様

二〇二三年十月十五日帰天
享年七十二歳

フランシスコ・ザビエル

宮里豊一様

二〇二三年十一月六日帰天
享年九十二歳

◆聖マリアの汚れなき御心の フランシスコ姉妹会

Sr アガタ 安田美佐子様

二〇二三年十一月九日帰天
享年六十八歳

◆与那原教会

ヴェロニカ 崎山静子様

二〇二三年十一月十四日帰天
享年八十四歳

1

典礼について

典礼担当 ポスコ・ティン神父

那覇教区の親愛なる信者の皆さん、今年十月、ウエイン司教様は私に、那覇教区の典礼担当を任命されました。私は二〇二三年の待降節から、「南の光明」で、毎月、教会の典礼について伝えたいのです。よろしくお願いいたします。

典礼とは何でしょうか。典礼とは「キリストのわざである典礼です。

キリストの教会の行為でもありま

す。」「典礼を通して、

教会が「神のみわ

ざ」に参加するこ

とを意味していま

す。典礼によって、

私たちの贖い主、

大祭司であるキリ

ストは、教会の中で、

教会とともに、教会

によって、私たちの

贖いのわざを続け

られます（カテキズ

ム・一〇七・一〇六九参照）。

教会のカレンダーは待降節か

ら、王であるキリストの主日まで

です。「教会はキリストの神秘全

体を一年周期として追憶するが、

それは受肉に始まり、聖霊降臨の

日、さらには、主の来臨の待望に

まで及んでいるのである」（典礼

暦年の一般原則・十七参照）。

一年周期には、待降節、降誕節、

四旬節、復活節、年間があります。

「キリストの神秘を一年の周期

をもって祝う際、教会は幸いな神

の母マリアをも特別に敬い、ま

た、信者の信心のために、殉教者

や、その他の聖人を追憶する」（同

八参照）。そのお祝いには、祭日、

祝日、記念日があります。

今年、十二月三日（日）、待降

節に入るので、待降節について伝

えたいです。

「待降節は二種の特徴をもつ。

それは、まず、神の子の第一の来

臨を追憶する降誕の祭典のための

準備期間であり、また同時に、そ

の追憶を通して、終末における

キリストの第二の来臨の待望へ

と心を向ける期間でもある」（同

三十九参照）。

「待降節は、十一月三十日、も

しくは、それに近い主日の『前晩

の祈り』に始まり、主の降誕の『前

晩の祈り』の前に終了する」（同

四十参照）。

「この節の主日は、待降節第一、

二、三、四主日と呼ぶ」（同四十一参

照）。

教会の習慣はろうそく、四本を

飾ります。第一、二、四主日は紫の

色です。特別に待降節第三主日は

ピンクの色です。「十二月十七日

から二十四に至る週日は、いつそ

う直接に主の降誕の準備に向けら

れています」（同四十二参照）。

待降節の後は降誕節です。「例

年の過越の神秘の祭儀に次いで、

教会が行ってきた最古の祭儀は、

主の降誕の記念と主の初期の公現

の追憶である。これは、降誕節中

に行われる」（同三十二参照）。

降誕の神秘とは「イエスは貧し

い家族の一員として、家畜小屋の

貧しい環境の中でお生まれになり

ました。ただの羊飼いたちが、こ

の出来事の最初の証人です。しか

も、この貧しさのうちに、天の栄

光が現れました」（カテキズム・

五二五参照）。

「降誕の神秘が私たちのうちに

成就するのは、キリストが私たち

のうちに形づくられるときです。

降誕は、この『驚嘆すべき交換』

の神秘です。『ああ、驚嘆すべき

交換よ！人間の創造主は生きた肉

体をとっておとめから生まれ、男

を介せずに人になり、私たちにそ

の神性を贈られた」（同五二六）。

降誕節は二十四日のイブのミサ

から、主の洗礼の日までです。

皆さん、教会の典礼を通して、
全教会の信者さんとともに、祈っ
て、生きましょう。



葬祭の
「やすらい企画」

24時間
受付

私たちは故人とご遺族の意向
を最優先に考えます。何でもご
相談下さい。

那覇市首里鳥堀町4-57-3

TEL&FAX:098-885-8205

http://w1.nirai.ne.jp/yasurai

E-mail:yasurai@nirai.ne.jp

～ご遺族の心をもって奉仕する～
そうてんしゃ

葬典社

*創業30数余年・・・。

*皆様に支えられ「感謝」とともに人生を閉じるための
お手伝いをさせていただいております。

*ご質問、ご相談、24時間、いつでもお電話下さい。

「ゆうな会」会員募集中です。

ひが たかしげ
(実務担当) 比嘉 高茂

24時間
受付

てんごく
☎098-853-1059



主日・クリスマス・新年のミサ時間案内 Mass Schedule

教 会	主日のミサ Sunday's Mass		クリスマス Christmas		新 年 NewYear	司 祭 Priest	TEL
	日曜日 Sunday	土曜日 Saturday	24日(日)	25日(月)			
名 護 Nago	10:00		10:00 19:00	19:00	31日 10:00 1日 10:00	マイケル・ヴィン師	0980-52-2241
愛楽園 Airakuen	8:00		8:00		8:00	マイケル・ヴィン師	0980-52-8379
読 谷 Yomitan	8:00 10:00		19:00	日本語 19:00 英語 10:00	31日 19:00 1日 8:00 1日 10:00	リカルド・ブガス師	098-956-3789
石 川 Ishikawa	9:30		19:00	9:30	10:00	藤澤幾義師	098-864-2084
具志川 Gushikawa	9:30		19:00	9:30	31日 19:00 1日 9:30	サニー・カンティラーノ師	098-974-3643
泡 瀬 Awase	9:30		19:00	9:30	31日 18:30 1日 9:30	ヨゼフ・ブイ師	098-937-3598
コ ザ Koza	8:30		8:00 19:30	8:30	10:00 ミサ後、車の祝福	ピーター・チェ師	098-937-7064
普天間 Futenma	9:00		9:00	19:00	31日 9:00 31日 19:00 三が日 9:00	ナビーン・セクウェラ師	098-892-2503
真栄原 Maehara	10:00		19:00	10:00	1日 10:00	デニス・フェルナンデス師	098-897-7484
首 里 Shuri	9:00		9:00	19:00	9:00 ミサ後、車の祝福	ボスコ・ティン師	098-884-4787
安 里 Asato	9:00	19:00	19:00	9:00	9:00	フランシス・ティエン師	098-863-2021
開 南 Kainan	9:30		9:30 19:00	15:00	9:30	古川政孝師	098-832-3037
小 禄 Oroku	10:00	19:00	19:00	10:00	10:00	マキシム・デソーザ師	098-857-2128
与那原 Yonabaru	9:00		19:00	19:00	三が日 10:00	クレーバー・ディ・ソーザ師	098-945-2355
大 里 Ozato							
宮古島平良 Miyakojima	9:00		9:00	9:00	31日 9:00 1日 9:00	ヨアキム・ホアイ師	0980-72-2445
保 良 Bora	12:00		12:00		14:00	ヨアキム・ホアイ師	
南静園 Nanseien							
石垣 Ishigaki	10:00		18:30	10:00	31日 18:30 1日 10:00	ロドニー・モンディド師	0980-82-2322

※大里、南静園のミサは現在休止中です。スペイン語ミサは来年以降の予定が未定のため、掲載を見合わせています。読谷と普天間でのスペイン語ミサについては、直接主任司祭にお問合せ下さい。